

浜の活力再生プラン
(第 2 期)

1 地域水産業再生委員会 浜プラン ID 1126003

組織名	岡山県地域水産業再生委員会岡山市地区部会
代表者名	部会長 豊田 安彦

再生委員会の構成員	朝日漁業協同組合、九幡漁業協同組合、小串漁業協同組合、岡山市漁業協同組合、岡山市
オブザーバー	岡山県農林水産部水産課、岡山県農林水産総合センター、岡山県漁業協同組合連合会

※再生委員会の規約及び推進体制の分かる資料を添付すること。

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	<p>岡山市朝日、九幡、小串、三幡地区：対象漁業者 38 名</p> <p>○ノリ養殖漁業（専業）・・・・・・・・・・ 17 名</p> <p>○ノリ養殖漁業と漁船漁業の兼業・・・・・・・・ 8 名</p> <p> 流網漁業と兼業（7）</p> <p> 小型底引き網漁業と兼業（1）</p> <p>○漁船漁業（専業）・・・・・・・・・・ 13 名</p> <p> 流網漁業（2）</p> <p> 小型底引き網漁業（11）</p>
-------------------	--

※策定時点で対象となる漁業者数も記載すること。

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

<p>当地区は児島湾とそれに接続する海域に位置し、主な漁場である湾外の海域は岡山県内でも有数のノリ養殖漁場であり、他に小型底びき網漁業が行われている。また、沖合にはサワラ、マナガツオが回遊するため流網漁業も行われている。</p> <p>一方、湾内は古くは好漁場であったが、明治時代以降実施された大規模な干拓事業や、昭和 30 年代に児島湖締切堤防が建設されたことにより、現在ではその海域の多くを失ってしまい、潮の流れが変わるなどの結果として魚介類の棲みにくい海となり、かつての好漁場も失われてしまった。</p> <p>ノリ養殖漁業についても湾内での養殖をあきらめ、昭和 40 年頃から湾外の犬島周辺海域へと主漁場を移しており、湾内における漁業は衰退の一途をたどっている。</p> <p>現在、犬島周辺など児島湾外の海域を主漁場としているノリ養殖漁業では、海中の栄養塩の減</p>

少による生産量の減少やノリの色落ちによる品質低下が発生しており、その要因として、主要河川へのダム建設や公共下水道の整備が指摘されている。また、近年の海水温上昇の影響から、網の張り込み時期が遅くなり、漁期が短くなっていることや、カモ等によるノリ新芽への被害など有害鳥類の影響から、漁獲量の減少もみられる。さらに、ノリ養殖漁業はノリ網の張り込みやノリの摘み取りなど、海上での重労働が必要なことに加え、漁船や設備に高額投資が必要なこともあり、後継者が育たない状況となっている。

漁船漁業においても、児島湾内外の水産資源が減少するなか、消費者の魚離れや、量販店の台頭による魚価の低迷、燃油や資材の高騰によるコスト増から、収益が悪化している。

(2) その他の関連する現状等

一次産業は食物を安定供給することで国民生活の維持に貢献してきたが、海外からの安い食料品が輸入されることにより、生産物の価格が下がり経済的に成り立たなくなり、衰退の一途をたどっている。

また、現在の景気動向や人口減少の影響から食品の市場規模自体が減少傾向にあり、限られた消費者を各産地が奪いあう状況から、他産地との差別化を求められている。

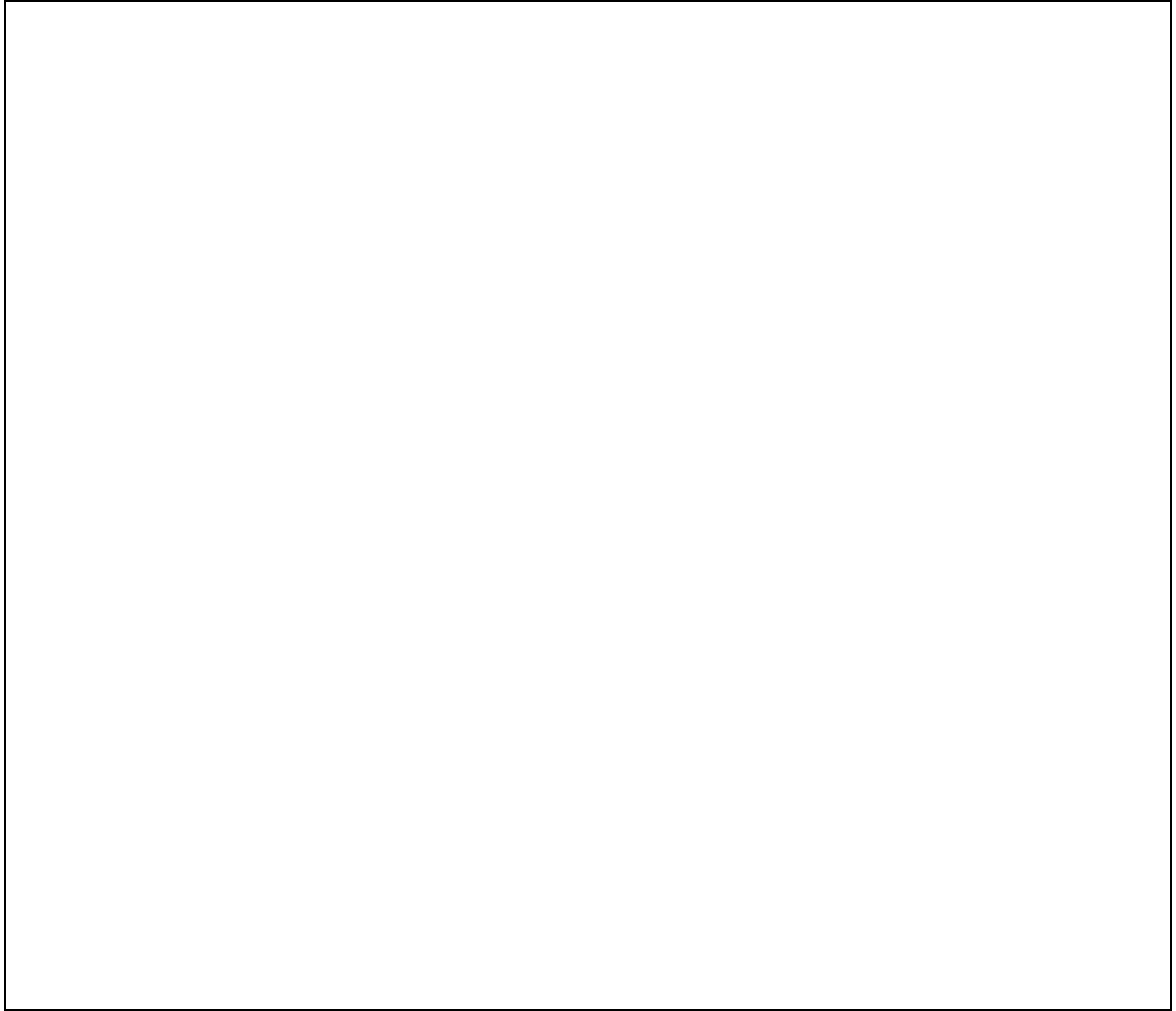
そうした中、食の「安全」「安心」への関心が高まっていることから、産地は更なる品質向上や衛生管理に取り組んでおり、燃油や漁業資材の価格上昇とあわせ、経費が増大している。

一方で、消費者の動向は、「安全」「安心」に加えて「安価」なものを求める傾向にあり、生産者は高い経費をかけたものを安く売らざるを得ない状況にある。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

--



(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

○ノリの安定生産と品質向上の取組

硝酸塩センサーのデータを参考にした養殖作業、養殖業者間での情報共有や協業（共同乾燥など）等によるノリの品質向上、均一化を進めるとともに、ノリ加工場の衛生管理等を徹底し地区全体の信頼性確保に努める。

また、海域の栄養塩増加のため、海底耕耘や森林整備への協力等の取組を行う。

○岡山県産ノリの知名度向上

ノリ養殖業者及び漁協は、当該地区が県内でも主要なノリの生産地にも関わらず、消費者の認知度が低いことから、イベントやパネル展等を利用して、県産ノリの知名度の向上を図り、需要の増加を図る。

○サワラの鮮度向上の取組

漁船漁業者は、漁獲後のサワラの鮮度保持の方法について、引き続き市場関係者や県水産研究所、県水産課、市場関係者、漁業者間で情報交換、検討を行い、魚価向上を図る。

○アキアミの単価安定の取組

漁船漁業者は、アキアミの漁獲量の変動が激しく好漁の時は値崩れしやすいため、1日あたりの漁獲量と出荷量に加え出漁時間帯も制限を行い、単価の安定化を図る。

○資源管理型漁業の推進

漁業者、漁協及び市は、県水産研究所と連携し、種苗放流、中間育成を継続するとともに、サワラの受精卵放流や小型魚の放流に積極的に取り組む。

○漁場保全活動の取組

全漁業者は、市の協力のもと、年1回の一斉海岸清掃をはじめ、随時、漁場の保全に努めるとともに、災害等有事の際には国、県、市等と連携して、漁場の環境回復に努める。

小串漁協は、地元小学校と連携してアマモの種とり、播種を行い、アマモ場を増大に努めるとともに、子どもに海とふれあう場を提供することで、浜への関心を高めてもらう。

○有害鳥類などによる食害への対策

近年、カモ等の有害鳥類による漁業被害が拡大していることから、県や市、その他関係機関と連携して、食害被害の詳細な調査や対策を検討する。

○その他

各漁協は、計画的に漁港の整備、保全、防災対策について県、市に要望する。

ホームページやSNSなどを積極的に活用して浜の状況を発信し、岡山市地域漁業全体の知名度向上を図り、漁業者の多様な所得向上を目指す。

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

漁船漁業については、岡山県資源管理指針に基づき、小型底びき網袋網の目合いの制限、小型魚の再放流、抱卵ガザミの再放流、休漁日を設定している。

ノリ養殖漁業については、岡山県ノリ養殖漁場改善計画に基づき、養殖棚数量、養殖漁場及び期間等について定めている。

※プランの取組に関連する漁業調整規則や漁業調整委員会指示等について記載する。

(4) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（平成31年度）

以下の取組により漁業所得を基準年比2.0%向上させる。

※以降、以下の取組内容は、取組の進捗状況や得られた知見等を踏まえ、必要に応じて見直すこととする。

漁業収入向上のための取組	以下の取組により漁業収入を向上させ、漁業所得の基準年比1.5%向上を目指す。 ○ノリの安定生産と品質向上の取組 ●ノリ加工場の衛生管理等を徹底し地区全体の信頼性確保に努める。 ●硝酸塩連続観測データを参考に、ノリが色落ちする前に摘み取るなど被害の軽減を図る。
--------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ●ノリ養殖学習会やのり漁場協議会など養殖業者間での情報共有（共販における商社買付動向など）や協業化（共同乾燥など）等によるノリの品質向上、均一化を進める。 ●海域の栄養塩増加のため、県水産研究所の意見を参考に、より有効な箇所での海底耕耘に漁業者全体で取り組む。 ●長期的な視点から豊かな海を目指すため、漁業後継者を中心とした若い世代が、上流域の森林の下草刈り等、森林整備に取り組む。 <p>○岡山県産ノリの知名度向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ノリ養殖漁業者は、毎年5月に開催している「とれたて岡山魚フェスタ」をはじめ、「地産地消マルシェ」や地元スポーツチームのPRブースなどのイベントやパネル展等に積極的に参加し、試供品の提供や販売などを通じて県産ノリの知名度の向上を図り、需要の増加を図る。 <p>○サワラの鮮度向上の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ●漁船漁業者は、漁獲後のサワラの鮮度保持の方法について、市場関係者や県水産研究所、県水産課、市場関係者、漁業者間で情報交換、検討を行い、魚価向上を図る。 <p>○アキアミの単価安定の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ●漁船漁業者は、アキアミの値崩れを防ぐため、1日あたりの漁獲量と出荷量、出漁時間の制限を行い、単価の安定化を図る。 <p>○資源管理型漁業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●漁業者、漁協及び市は、県水産研究所と連携し、種苗放流、中間育成事業に協力するとともに、サワラの受精卵放流などにも積極的に取り組む。 <p>○漁場保全活動の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ●全漁業者は、市の協力のもと、年1回の一斉海岸清掃をはじめ、随時、漁場の保全に努める。 ●災害等有事の際には国、県、市等と連携して、漁場の環境回復に努める。 ●小串漁協は、地元小学校と連携してアマモの種とり、播種を行い、アマモ場の増大に努める。 <p>○有害鳥類などによる食害への対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ●県水産課や市、岡山県漁連等の関係機関と連携して、食害被害の詳細な調査方法について検討する。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各漁協は、計画的な漁港の整備、保全、防災対策等について、県、市に要望を行う。 ●ホームページやSNSなどを積極的に活用して浜の状況を発信するため、海苔、サワラ、ウナギ等、岡山市地域の浜の魅力について再検討し、
--	--

	岡山市地域漁業全体の知名度向上を図り、漁業者の多様な所得向上を目指す。
漁業コスト削減のための取組	<p>以下の取組により漁業コストを削減し、漁業所得の基準年比 0.5%向上を目指す。</p> <p>○省燃油活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ●全漁業者は、漁船の船底清掃を実施するとともに、巡航時の回転数を下げ、燃油使用量を削減する。 ●ノリ養殖業者は、作業の効率化を徹底し、漁場までの資材等の運搬回数を減らす。 <p>○ノリ養殖の協業化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ノリ養殖業者は、設備投資による生産コストの高騰等に対処するため、数名での協業化（共同乾燥など）の可能性を探る。 <p>○漁業経営セーフティーネット構築事業への積極的な参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ●漁協は、燃油の高騰による漁業コストの圧迫に備えるため、組合員に対して漁業経営セーフティーネット構築事業に積極的な参加を促す。
活用する支援措置等	<p>漁業経営セーフティーネット構築事業</p> <p>漁業近代化資金</p> <p>岡山県漁業振興特別対策事業（県）</p> <p>岡山市水産業振興補助金（市）</p> <p>水産基盤整備事業（国）</p> <p>農山漁村地域整備交付金（国）</p> <p>港整備交付金（国）</p>

2年目（平成32年度）

以下の取組により漁業所得を基準年比 4.0%向上させる。

漁業収入向上のための取組	<p>以下の取組により漁業収入を向上させ、漁業所得の基準年比 3.0%向上を目指す。</p> <p>○ノリの安定生産と品質向上の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ノリ加工場の衛生管理等を徹底し地区全体の信頼性確保に努める。 ●硝酸塩連続観測データを参考に、ノリが色落ちする前に摘み取るなど被害の軽減を図る。 ●ノリ養殖学習会やのり漁場協議会など養殖業者間での情報共有（共販における商社買付動向など）や協業化（共同乾燥など）等によるノリの品質向上、均一化を進める。 ●海域の栄養塩増加のため、県水産研究所の意見を参考に、より有効な箇
--------------	---

	<p>所での海底耕耘に漁業者全体で取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●長期的な視点から豊かな海を目指すため、漁業後継者を中心とした若い世代が、上流域の森林の下草刈り等、森林整備に取り組む。 <p>○岡山県産ノリの知名度向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ノリ養殖漁業者は、毎年5月に開催している「とれたて岡山魚フェスタ」をはじめ、「地産地消マルシェ」や地元スポーツチームのPRブースなどのイベントやパネル展等に積極的に参加し、試供品の提供や販売などを通じて県産ノリの知名度の向上を図り、需要の増加を図る。 <p>○サワラの鮮度向上の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ●漁船漁業者は、漁獲後のサワラの鮮度保持の方法について、市場関係者や県水産研究所、県水産課、市場関係者、漁業者間で情報交換、検討を行い、魚価向上を図る。 <p>○アキアミの単価安定の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ●漁船漁業者は、アキアミの値崩れを防ぐため、1日あたりの漁獲量と出荷量、出漁時間の制限を行い、単価の安定化を図る。 <p>○資源管理型漁業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●漁業者、漁協及び市は、県水産研究所と連携し、種苗放流、中間育成事業に協力するとともに、サワラの受精卵放流などにも積極的に取り組む。 <p>○漁場保全活動の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ●全漁業者は、市の協力のもと、年1回の一斉海岸清掃をはじめ、随時、漁場の保全に努める。 ●災害等有事の際には国、県、市等と連携して、漁場の環境回復に努める。 ●小串漁協は、地元小学校と連携してアマモの種とり、播種を行い、アマモ場の増大に努める。 <p>○有害鳥類などによる食害への対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ●県水産課や市、岡山県漁連等の関係機関と連携して、食害被害の詳細な調査方法について検討する。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各漁協は、計画的な漁港の整備、保全、防災対策等について、県、市に要望を行う。 ●ホームページやSNSなどを積極的に活用して浜の状況を発信するため、海苔、サワラ、ウナギ等、岡山市地域の浜の魅力について再検討し、岡山市地域漁業全体の知名度向上を図り、漁業者の多様な所得向上を目指す。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>以下の取組により漁業コストを削減し、漁業所得の基準年比1.0%向上を目指す。</p>

	<p>○省燃油活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ●全漁業者は、漁船の船底清掃を実施するとともに、巡航時の回転数を下げ、燃油使用量を削減する。 ●ノリ養殖業者は、作業の効率化を徹底し、漁場までの資材等の運搬回数を減らす。 <p>○ノリ養殖の協業化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ノリ養殖業者は、設備投資による生産コストの高騰等に対処するため、数名での協業化（共同乾燥など）の可能性を探る。 <p>○漁業経営セーフティーネット構築事業への積極的な参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ●漁協は、燃油の高騰による漁業コストの圧迫に備えるため、組合員に対して漁業経営セーフティーネット構築事業に積極的な参加を促す。
活用する支援措置等	<p>漁業経営セーフティーネット構築事業 漁業近代化資金 岡山県漁業振興特別対策事業（県） 岡山市水産業振興補助金（市） 水産基盤整備事業（国） 農山漁村地域整備交付金（国） 港整備交付金（国）</p>

3年目（平成33年度）

以下の取組により漁業所得を基準年比 6.0%向上させる。

漁業収入向上のための取組	<p>以下の取組により漁業収入を向上させ、漁業所得の基準年比 4.5%向上を目指す。</p> <p>○ノリの安定生産と品質向上の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ノリ加工場の衛生管理等を徹底し地区全体の信頼性確保に努める。 ●硝酸塩連続観測データを参考に、ノリが色落ちする前に摘み取るなど被害の軽減を図る。 ●ノリ養殖学習会やのり漁場協議会など養殖業者間での情報共有（共販における商社買付動向など）や協業化（共同乾燥など）等によるノリの品質向上、均一化を進める。 ●海域の栄養塩増加のため、県水産研究所の意見を参考に、より有効な箇所での海底耕耘に漁業者全体で取り組む。 ●長期的な視点から豊かな海を目指すため、漁業後継者を中心とした若い世代が、上流域の森林の下草刈り等、森林整備に取り組む。 <p>○岡山県産ノリの知名度向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ノリ養殖漁業者は、毎年5月に開催している「とれたて岡山魚フェスタ」
--------------	--

	<p>をはじめ、「地産地消マルシェ」や地元スポーツチームのPRブースなどのイベントやパネル展等に積極的に参加し、試供品の提供や販売などを通じて県産ノリの知名度の向上を図り、需要の増加を図る。</p> <p>○サワラの鮮度向上の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ●漁船漁業者は、漁獲後のサワラの鮮度保持の方法について、市場関係者や県水産研究所、県水産課、市場関係者、漁業者間で情報交換、検討を行い、魚価向上を図る。 <p>○アキアミの単価安定の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ●漁船漁業者は、アキアミの値崩れを防ぐため、1日あたりの漁獲量と出荷量、出漁時間の制限を行い、単価の安定化を図る。 <p>○資源管理型漁業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●漁業者、漁協及び市は、県水産研究所と連携し、種苗放流、中間育成事業に協力するとともに、サワラの受精卵放流などにも積極的に取り組む。 <p>○漁場保全活動の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ●全漁業者は、市の協力のもと、年1回の一斉海岸清掃をはじめ、随時、漁場の保全に努める。 ●災害等有事の際には国、県、市等と連携して、漁場の環境回復に努める。 ●小串漁協は、地元小学校と連携してアマモの種とり、播種を行い、アマモ場の増大に努める。 <p>○有害鳥類などによる食害への対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ●県水産課や市、岡山市漁連等の関係機関と連携して、食害被害の詳細な調査を実施し成果検証を行う。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各漁協は、計画的な漁港の整備、保全、防災対策等について、県、市に要望を行う。 ●ホームページやSNSなどを積極的に活用して浜の状況を発信するため、海苔、サワラ、ウナギ等、岡山市地域の浜の魅力について再検討し、岡山市地域漁業全体の知名度向上を図り、漁業者の多様な所得向上を目指す。 ●浜の魅力発信のPR方法について、関係機関と情報交換、連携しながら、新たな方策を検討実施する。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>以下の取組により漁業コストを削減し、漁業所得の基準年比1.5%向上を目指す。</p> <p>○省燃油活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ●全漁業者は、漁船の船底清掃を実施するとともに、巡航時の回転数を下げ、燃油使用量を削減する。

	<ul style="list-style-type: none"> ●ノリ養殖業者は、作業の効率化を徹底し、漁場までの資材等の運搬回数を減らす。 ○ノリ養殖の協業化 <ul style="list-style-type: none"> ●ノリ養殖業者は、設備投資による生産コストの高騰等に対処するため、数名での協業化（共同乾燥など）の可能性を探る。 ○漁業経営セーフティーネット構築事業への積極的な参加 <ul style="list-style-type: none"> ●漁協は、燃油の高騰による漁業コストの圧迫に備えるため、組合員に対して漁業経営セーフティーネット構築事業に積極的な参加を促す。
活用する支援措置等	<p>漁業経営セーフティーネット構築事業</p> <p>漁業近代化資金</p> <p>岡山県漁業振興特別対策事業（県）</p> <p>岡山市水産業振興補助金（市）</p> <p>水産基盤整備事業（国）</p> <p>農山漁村地域整備交付金（国）</p> <p>港整備交付金（国）</p>

4年目（平成34年度）

以下の取組により漁業所得を基準年比 8.0%向上させる。

漁業収入向上のための取組	<p>以下の取組により漁業収入を向上させ、漁業所得の基準年比 6.0%向上を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ノリの安定生産と品質向上の取組 <ul style="list-style-type: none"> ●ノリ加工場の衛生管理等を徹底し地区全体の信頼性確保に努める。 ●硝酸塩連続観測データを参考に、ノリが色落ちする前に摘み取るなど被害の軽減を図る。 ●ノリ養殖学習会やのり漁場協議会など養殖業者間での情報共有（共販における商社買付動向など）や協業化（共同乾燥など）等によるノリの品質向上、均一化を進める。 ●海域の栄養塩増加のため、県水産研究所の意見を参考に、より有効な箇所での海底耕耘に漁業者全体で取り組む。 ●長期的な視点から豊かな海を目指すため、漁業後継者を中心とした若い世代が、上流域の森林の下草刈り等、森林整備に取り組む。 ○岡山県産ノリの知名度向上 <ul style="list-style-type: none"> ●ノリ養殖漁業者は、毎年5月に開催している「とれたて岡山魚フェスタ」をはじめ、「地産地消マルシェ」や地元スポーツチームのPRブースなどのイベントやパネル展等に積極的に参加し、試供品の提供や販売などを通じて県産ノリの知名度の向上を図り、需要の増加を図る。
--------------	---

	<p>○サワラの鮮度向上の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ●漁船漁業者は、漁獲後のサワラの鮮度保持の方法について、市場関係者や県水産研究所、県水産課、市場関係者、漁業者間で情報交換、検討を行い、魚価向上を図る。 <p>○アキアミの単価安定の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ●漁船漁業者は、アキアミの値崩れを防ぐため、1日あたりの漁獲量と出荷量、出漁時間の制限を行い、単価の安定化を図る。 <p>○資源管理型漁業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●漁業者、漁協及び市は、県水産研究所と連携し、種苗放流、中間育成事業に協力するとともに、サワラの受精卵放流などにも積極的に取り組む。 <p>○漁場保全活動の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ●全漁業者は、市の協力のもと、年1回の一斉海岸清掃をはじめ、随時、漁場の保全に努める。 ●災害等有事の際には国、県、市等と連携して、漁場の環境回復に努める。 ●小串漁協は、地元小学校と連携してアマモの種とり、播種を行い、アマモ場の増大に努める。 <p>○有害鳥類などによる食害への対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ●県水産課や市、岡山県漁連等の関係機関と連携して、食害被害の詳細な調査について、必要であれば継続し、また、成果検証に基づいた対策を検討し可能なものは試験実施する。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各漁協は、計画的な漁港の整備、保全、防災対策等について、県、市に要望を行う。 ●ホームページやSNSなどを積極的に活用して浜の状況を発信するため、海苔、サワラ、ウナギ等、岡山市地域の浜の魅力について再検討し、岡山市地域漁業全体の知名度向上を図り、漁業者の多様な所得向上を目指す。 ●浜の魅力発信のPR方法について、関係機関と情報交換、連携しながら、新たな方策を検討実施する。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>以下の取組により漁業コストを削減し、漁業所得の基準年比2.0%向上を目指す。</p> <p>○省燃油活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ●全漁業者は、漁船の船底清掃を実施するとともに、巡航時の回転数を下げ、燃油使用量を削減する。 ●ノリ養殖業者は、作業の効率化を徹底し、漁場までの資材等の運搬回数を減らす。

	<p>○ノリ養殖の協業化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ノリ養殖業者は、設備投資による生産コストの高騰等に対処するため、数名での協業化（共同乾燥など）の可能性を探る。 <p>○漁業経営セーフティーネット構築事業への積極的な参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ●漁協は、燃油の高騰による漁業コストの圧迫に備えるため、組合員に対して漁業経営セーフティーネット構築事業に積極的な参加を促す。
活用する支援措置等	<p>漁業経営セーフティーネット構築事業</p> <p>漁業近代化資金</p> <p>岡山県漁業振興特別対策事業（県）</p> <p>岡山市水産業振興補助金（市）</p> <p>水産基盤整備事業（国）</p> <p>農山漁村地域整備交付金（国）</p> <p>港整備交付金（国）</p>

5年目（平成35年度）

以下の取組により漁業所得を基準年比 10.0%向上させる。

漁業収入向上のための取組	<p>以下の取組により漁業収入を向上させ、漁業所得の基準年比 7.5%向上を目指す。</p> <p>○ノリの安定生産と品質向上の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ノリ加工場の衛生管理等を徹底し地区全体の信頼性確保に努める。 ●硝酸塩連続観測データを参考に、ノリが色落ちする前に摘み取るなど被害の軽減を図る。 ●ノリ養殖学習会やのり漁場協議会など養殖業者間での情報共有（共販における商社買付動向など）や協業化（共同乾燥など）等によるノリの品質向上、均一化を進める。 ●海域の栄養塩増加のため、県水産研究所の意見を参考に、より有効な箇所での海底耕耘に漁業者全体で取り組む。 ●長期的な視点から豊かな海を目指すため、漁業後継者を中心とした若い世代が、上流域の森林の下草刈り等、森林整備に取り組む。 <p>○岡山県産ノリの知名度向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ノリ養殖漁業者は、毎年5月に開催している「とれたて岡山魚フェスタ」をはじめ、「地産地消マルシェ」や地元スポーツチームのPRブースなどのイベントやパネル展等に積極的に参加し、試供品の提供や販売などを通じて県産ノリの知名度の向上を図り、需要の増加を図る。 <p>○サワラの鮮度向上の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ●漁船漁業者は、漁獲後のサワラの鮮度保持の方法について、市場関係者
--------------	--

	<p>や県水産研究所、県水産課、市場関係者、漁業者間で情報交換、検討を行い、魚価向上を図る。</p> <p>○アキアミの単価安定の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ●漁船漁業者は、アキアミの値崩れを防ぐため、1日あたりの漁獲量と出荷量、出漁時間の制限を行い、単価の安定化を図る。 <p>○資源管理型漁業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●漁業者、漁協及び市は、県水産研究所と連携し、種苗放流、中間育成事業に協力するとともに、サワラの受精卵放流などにも積極的に取り組む。 <p>○漁場保全活動の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ●全漁業者は、市の協力のもと、年1回の一斉海岸清掃をはじめ、随時、漁場の保全に努める。 ●災害等有事の際には国、県、市等と連携して、漁場の環境回復に努める。 ●小串漁協は、地元小学校と連携してアマモの種とり、播種を行い、アマモ場の増大に努める。 <p>○有害鳥類などによる食害への対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ●県水産課や市、岡山市漁連等の関係機関と連携して、食害被害調査結果に基づいた対策を実施し、成果検証を行う。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各漁協は、計画的な漁港の整備、保全、防災対策等について、県、市に要望を行う。 ●ホームページやSNSなどを積極的に活用して浜の状況を発信するため、海苔、サワラ、ウナギ等、岡山市地域の浜の魅力について再検討し、岡山市地域漁業全体の知名度向上を図り、漁業者の多様な所得向上を目指す。 ●浜の魅力発信のPR方法について、関係機関と情報交換、連携しながら、新たな方策を検討実施する。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>以下の取組により漁業コストを削減し、漁業所得の基準年比2.5%向上を目指す。</p> <p>○省燃油活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ●全漁業者は、漁船の船底清掃を実施するとともに、巡航時の回転数を下げ、燃油使用量を削減する。 ●ノリ養殖業者は、作業の効率化を徹底し、漁場までの資材等の運搬回数を減らす。 <p>○ノリ養殖の協業化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ノリ養殖業者は、設備投資による生産コストの高騰等に対処するため、数名での協業化（共同乾燥など）の可能性を探る。

	○漁業経営セーフティーネット構築事業への積極的な参加 ●漁協は、燃油の高騰による漁業コストの圧迫に備えるため、組合員に対して漁業経営セーフティーネット構築事業に積極的な参加を促す。
活用する支援措置等	漁業経営セーフティーネット構築事業 漁業近代化資金 岡山県漁業振興特別対策事業（県） 岡山市水産業振興補助金（市） 水産基盤整備事業（国） 農山漁村地域整備交付金（国） 港整備交付金（国）

(5) 関係機関との連携

各種取り組みについて、行政（岡山県）、系統団体（岡山県漁連）、地域団体（児島湾漁業振興協会等）と連携するとともに、異業種との連携にも注力する。

4 目標

(1) 所得目標

漁業所得の向上 10%以上	基準年	平成 25～29 年度の 5 中 3 平均： 漁業所得
	目標年	平成 35 年度： 漁業所得

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

部会の対象となる漁業者をノリ養殖漁業とノリ養殖漁業と漁船漁業の兼業、及び漁船漁業に分類した。それぞれの漁業種類から数名を抽出し、平成 25 年～29 年の所得を平均し、漁業種類ごとに 1 人あたりの基準数値を算出した。各漁業種類の 1 人あたりの所得に対象漁業者数を乗じて部会全体における基準年の漁業所得を算出した。
--

※算出の根拠及びその方法等について詳細に記載し、必要があれば資料を添付すること。

(3) 所得目標以外の成果目標

養殖ノリの買付等級の向上 及び品質の均一化 ※全量のうち 2 等級以上の 比率を 50%以上に向上	基準年	平成 27～29 年度平均： 2 等級以上の比率 38.7%
	目標年	平成 35 年度： 2 等級以上の比率 50.0%

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

<p>ノリの買付等級の向上を目指すとともに、品質の均一化を図ることで、安定した買付による所得の下支えを目指す。</p> <p>数値目標としては、平成 27～29 年度のノリの買付等級別実績から 2 等級以上の平均比率を算出 (38.7%) し、目標年には全体の過半を占める 50%を目指すこととしたが、当サブ指標においては、商社による大口買付の安定化に重きを置いており、買付動向に注視しながら、更なる等級管理に取り組み、品質の均一化を目指す</p>
--

※算出の根拠及びその方法等について詳細に記載し、必要があれば資料を添付すること。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
漁業経営セーフティネット構築事業	燃油高騰による漁業経費の増加に備え漁業所得の確保と安定を図る。
岡山県漁業振興特別対策事業	放流事業と漁協による施設等の整備とその活用。
岡山市水産業振興補助金	漁業協同組合に対する多面的支援。
水産基盤整備事業 農山漁村地域整備交付金 港整備交付金	漁業活動の一層の活性化、漁業就労環境の改善及び生活環境の改善を図るために漁港整備を行う。 漁港施設の機能保全を行うために必要な機能保全計画の策定及び保全工事を行う。 民生の安定上、重要な地域を高潮等による被害から守るために海岸保全施設整備を行う。

※関連事業には、活用を予定している国（水産庁以外を含む）、地方公共団体等の補助金・基金等を記載。ただし、本欄への記載をもって、事業の活用を確約するものではない。

※具体的な事業名が記載できない場合は、「事業名」は「未定」とし、「事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性」のみ記載する。